

第39週の発生動向 (2006/9/25~2006/10/1)

先週に引き続き、警報、注意報は出ていませんが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎は、流行時期になってきたので、今後、注意が必要です。

第39週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱									1	0.17			1	0.02	0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.56	8	0.89	3	0.33			3	0.50	1	0.25	20	0.48	15
(62) 感染性胃腸炎	11	1.22	6	0.67	4	0.44	2	0.40	4	0.67	22	5.50	49	1.17	14
(63) 水痘	12	1.33	10	1.11	6	0.67	1	0.20	5	0.83	2	0.50	36	0.86	11
(64) 手足口病	14	1.56			1	0.11	1	0.20					16	0.38	-2
(65) 伝染性紅斑	1	0.11			2	0.22	2	0.40	4	0.67	1	0.25	10	0.24	0
(66) 突発性発しん	4	0.44	9	1.00	5	0.56	1	0.20	7	1.17	5	1.25	31	0.74	14
(67) 百日咳															0
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	5	0.56			1	0.11			2	0.33			8	0.19	-1
(70) 麻疹(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	3	0.33	14	1.56	12	1.33	1	0.20	10	1.67	9	2.25	49	1.17	14
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50	3	1.00	1	0.50	2	2.00	1	0.50			8	0.73	3
(59) RSウイルス感染症															-2
(82) マイコプラズマ肺炎					8	8.00							8	1.33	2

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

お知らせ 2006年10月1日から、青森市が中核市に移行することに伴い青森保健所分は、東地方保健所と青森市保健所へ分離・名称変更となりましたが、当該週は便宜上、青森保健所として掲載します。第40週以降は、新名称で情報提供する予定です。

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(29) つつが虫病(四類全数把握疾患) : 八戸保健所: 1人 (18年計19人)

感染症の窓

マイコプラズマ肺炎

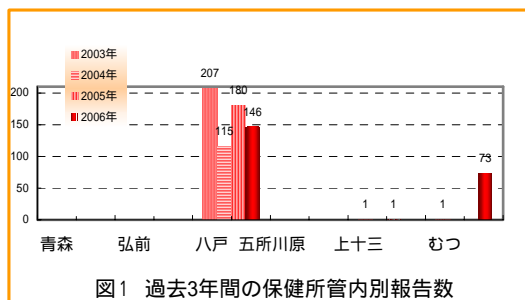


図1 過去3年間の保健所管内別報告数

本疾患の保健所管内別報告数は、過去3年間に於いて、八戸保健所管内が最も多い報告数となっています(図1)。また、2006年1月以降、全国値を上回る報告数で推移しています(図2)。また、初秋から冬にかけて流行する傾向にあることから、注意が必要です。病原体である *Mycoplasma pneumoniae* が咳や痰等によって飛沫感染します。頑固な長期にわたる咳や胸の痛み等がある場合には、早めに医療機関を受診し、登校や登園については、医師に相談することをお勧めします。

(人/定点)

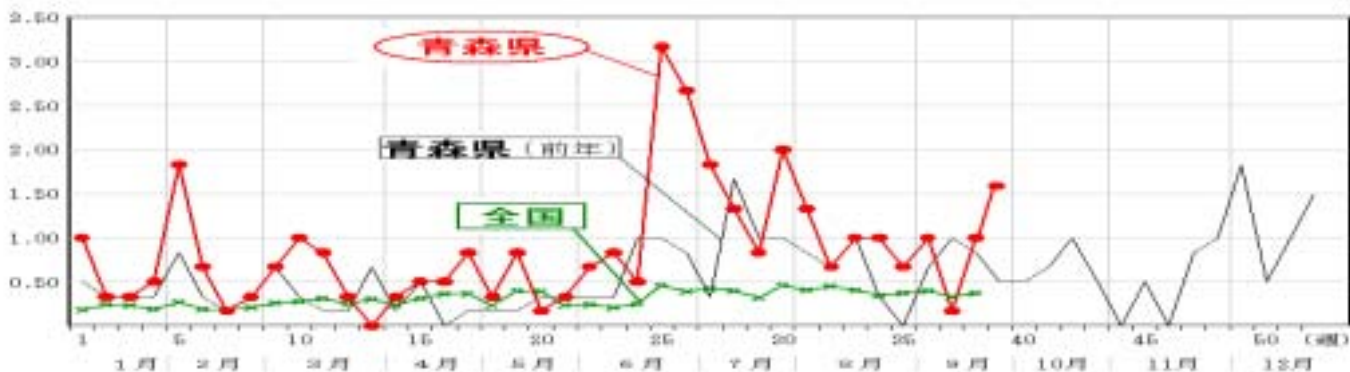


図2 全国および青森県におけるマイコプラズマ肺炎報告数(青森県: 2006年第1~39週)